《特別発表》

Ⅰ．第3回全国核医学診療実態調査報告

1．インビボ検査

久保敦司　佐々木康人
(社)日本アイソトープ協会　医学・薬学部会
全国核医学診療実態調査専門委員会

日本アイソトープ協会核医学診療実態調査専門委員会（委員長・佐々木康人）では，わが国における核医学診療実態調査を5年ごとに行っている．1992年6月に第3回の実態調査を実施し，このたびその最終結果がまとまったので，インビボ検査について集計・分析し過去2回の調査結果と比較して報告する．

アンケート回収率は92.5%（RI購入額換算の回収率では96.9%）で，ほぼわが国における核医学診療の実態を把握できたと思われる．インビボ核医学検査総数は調査月で13万2千件で5年前と比較すると6%増に過ぎなかったが，SPECTの施行割合が20%（1987年7%）と著しく増加している．検査項目別に見ると1位骨シンチ24.5%，2位腫瘍シンチ14.1%と順位は前回調査と同じで以下3位心筋シンチ11.9%，4位脳血流シンチ7.5%と著明に増加した2検査が続く．5年前とは大きな変化が見られる使用放射性医薬品の推移や地域ごとの特色などもあわせて報告する．

2．インビトロ検査

高坂唯子　佐々木康人
(社)日本アイソトープ協会　医学・薬学部会
全国核医学診療実態調査専門委員会

第3回核医学実態調査におけるインビトロ検査関係の調査結果を報告する．

インビトロ検査実施施設は第1回(935施設)，第2回(825施設)と比べ第3回は515施設と顕著な減少を示した．しかし，検査総数は年換算数6018万件で，前回(5542万件)と比べても増加していた．

施設別にインビトロ検査を実施している割合を比較すると，大学病院(5.6%)，民間病院(5.2%)，公立病院(3.1%)，国立病院(1.5%)で衛生検査所が84.6%と大きな割合を占めている．検査対象群としては腫瘍マーカー，甲状腺機能検査，肝炎ウイルス関連の検査が前回と同じく上位を占めたが，項目としてはCEA, RAST, CA19–9, TSH, インスリンの順となり対象項目の入れ替わりが顕著であった．

今回の報告にあたっては，第1回，第2回の調査結果と比較しながら，インビトロ検査の実態と動向を分析してみたい．

Presented by Medical*Online